

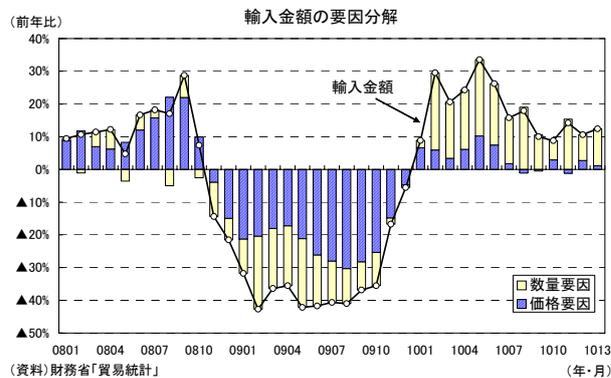
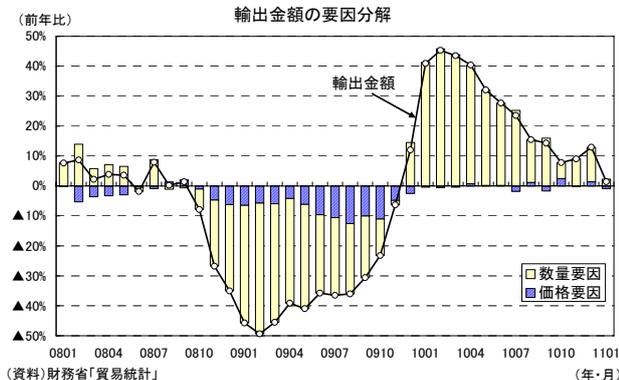
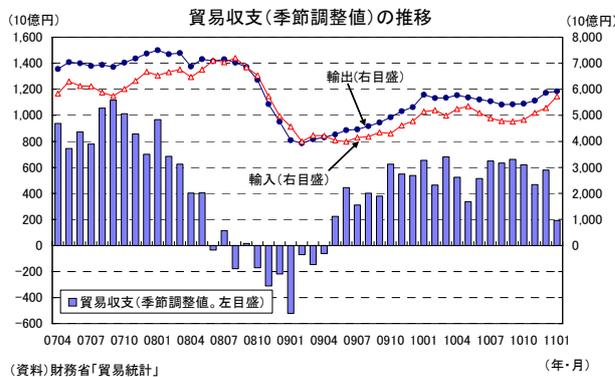
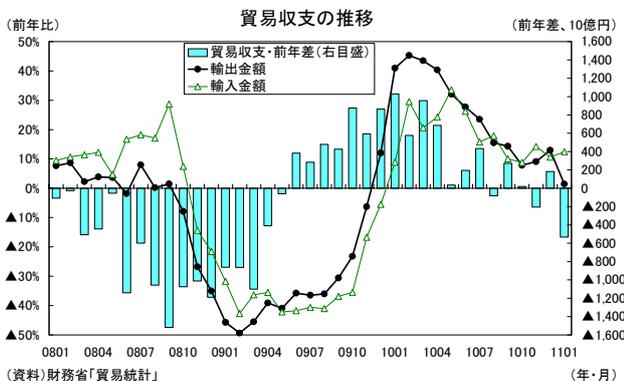
# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 11年1月 ～アジア向けを中心に輸出の伸びが急低下

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎  
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

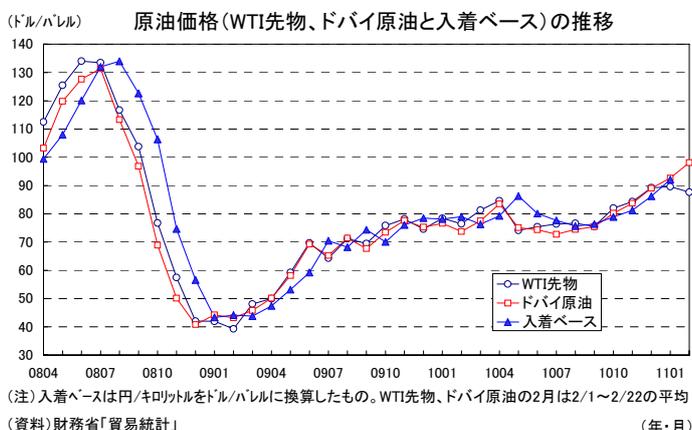
### 1. 貿易収支は1年10ヵ月ぶりの赤字

財務省が2月23日に公表した貿易統計によると、11年1月の貿易収支は▲4,714億円の赤字となり、事前の市場予想（共同通信集計：659億円、当社予想は▲287億円）を大きく下回った。輸入の伸びが前月よりも高まる（12月：前年比10.6%→1月：同12.4%）一方、輸出の伸びが急低下した（12月：前年比12.9%→1月：同1.4%）ため、貿易収支は1年10ヵ月ぶりの赤字となった。1月は正月休みの関係でもともと輸出金額が少なく赤字になりやすいという季節性がある（過去10年間のうち4回が赤字）ため、このこと自体を悲観的にみる必要はないが、季節調整済の貿易収支も前月から黒字幅が大きく縮小した（12月：5,799億円→1月：1,918億円）。輸出（季節調整値）は5ヵ月連続、輸入（季節調整値）は4ヵ月連続で前月よりも増加したが、輸入の伸び（前月比8.5%）が輸出の伸び（前月比1.0%）を大きく上回った。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比 2.3% (12月：同 11.4%)、輸出価格が前年比▲0.8% (12月：同 1.4%) であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比 11.2% (12月：同 7.7%)、輸入価格が前年比 1.1% (12月：同 2.7%) であった。

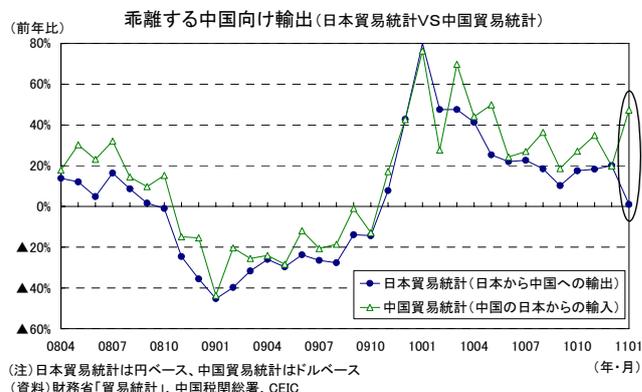
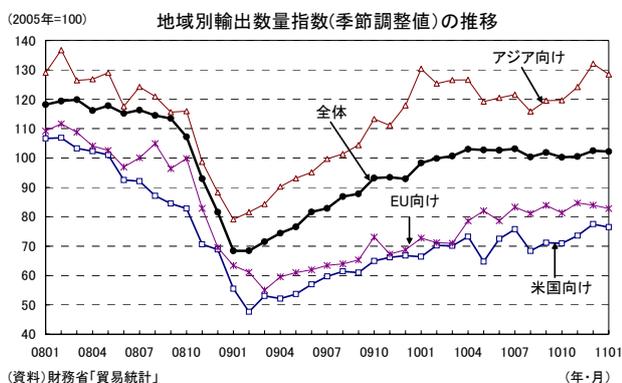
中東、北アフリカ情勢の混乱を背景に原油価格が急上昇している。1月の通関(入着)ベースの原油価格は1バレル=92.1ドルとなったが、2/22時点でドバイ原油は1バレル=104.3ドルまで上昇し、WTI先物(2/22時点、1バレル=93.57ドル)よりも10ドル程度高くなっている。日本は原油の9割近くを中東から輸入しているため、2月以降、入着ベースの原油価格はさらに上昇し、貿易収支の下押し要因となる可能性が高い。



## 2. アジア向け輸出の急減速は一時的な要因の可能性も

1月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 14.2% (12月：同 16.2%)、EU向けが前年比 13.3% (12月：同 22.1%)、アジア向けが前年比▲1.8% (12月：同 11.6%) であった。いずれの地域向けも伸びが鈍化したが、特にアジア向けの減速が顕著で、1年3ヵ月ぶりにマイナスとなった。季節調整値(当研究所による試算値)では、米国向けが前月比▲1.3%、EU向けが同▲1.3%、アジア向けが同▲2.7%、全体では同▲0.3%となった。

1月の輸出低迷の主因は中国をはじめとしたアジア向け輸出の急減速である。中国向けの輸出(金額ベース)は12月の前年比 20.1%から同 1.0%へと伸びが大幅に低下したが、中国向けの輸出が実勢として腰折れしたと考えるのは早計である。1月の中国の貿易統計では、日本からの輸入が前年比で50%近い伸び(ドルベース)となっており、日本の貿易統計と大きく乖離している。何らかの要因で出港が後ズレしている可能性もあるため、アジア向け輸出の基調を見極めるためには、2月の動きと合わせて見る必要があるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。